



「指導と評価の一体化」をテーマにお届けしてきた「授業改善リーフレット 2022 フォローアップ」の最終号である本号は、新設された観点別学習状況評価の三つ目の観点「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方について考えます。

1 「主体的に学習に取り組む態度」の二つの側面

「主体的に学習に取り組む態度」については、粘り強い取組を行おうとしている側面（以下「粘り強さ」と）粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面（以下「学習の調整」）の二つの側面から評価することが求められています。

『参考資料』*では、「粘り強さ」と「学習の調整」は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするときに発揮され、高まっていくものであることが示されています。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成する際に用いる言葉の例として下のよう記されています。

「粘り強さ」：積極的に、進んで、粘り強く等

「学習の調整」：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等

では、この二つの側面は、どのように評価したらよいのでしょうか。もう少し具体的に考えてみます。

「粘り強さ」：「言語活動」の過程で、子供は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身に付けていきます。その時の目標に向かって粘り強く取り組む、積極的な姿や試行錯誤する姿を評価します。

「学習の調整」：「自己調整学習」を通して見取ることが考えられます。これには「予見」「遂行コントロール」「自己省察」の各段階があります（右図*）。単元に「言語活動」を位置付け、これらを自分で調整しながら学習を進める姿を評価します。



上記がどのような場面でどのような姿として現れるのか、また、それを見取る方法を、単元計画の中に設定しておく、評価がしやすくなります。具体例として、以下の中学校・国語の実践を見ていきましょう。

2 どこで、何を使って評価するか…評価場面・評価規準・評価方法の設定

A中学校では、3年生国語「和歌」の学習において、「自分の『推し和歌』を見つけよう」という言語活動を位置付けた単元計画（下図）を作成し、実践しました。

| 次 時間 | 学習活動・場面 | 評価規準（評価方法） | | |
|-----------|---|---|--|--|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1次 2時間 | ○古今和歌集 仮名序を読み、和歌に対する興味を高める ◎言語活動「推し和歌を見つけよう」 | | 仮名序の表現上の工夫をとらえている（ノート） | イ 評価規準 ウ 評価方法 |
| 2次 3時間 | ○テーマを選んで様々な和歌について調べ、最も魅力があると思うものを学級で紹介する テーマ1 恋 テーマ2 季節・自然 ○スライドを作成し、「推し和歌」を紹介する | 和歌の技法や作者について理解し、作品と結びつけてスライドにまとめている（ワークシート） | 集めた情報をもとに、選んだ和歌の「種」が何かを考えたまとめている（スライド） | 「粘り強さ」 目的に合わせて、複数の書籍やWEBサイトを調べて情報を収集し、よりよく伝わるように修正している（ワークシート・観察） 「学習の調整」 【予見】見通しをもってスライドを作成している（ワークシート） 【遂行】作品の魅力について、複数の情報を統合して考えている（ワークシート） |
| 3次 | ○作ったスライドを和歌の | | | |

この単元計画では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面（ア）を2次に位置付けています。そして、そこで設定した「知識・技能」「思考・判断・表現」を身に付けるときに発揮される「粘り強さ」「学習の調整」の評価規準（イ）を作成するとともに、ワークシートや観察を評価方法（ウ）に設定しています。

3 どのように評価するのか…ルーブリックの作成

実際に評価するときには、ルーブリックを作ると到達度が明確になります。ルーブリックにより、「どのような子供の姿を目指すのか」を描いておくことは、学習活動の過程で個々に応じた支援にもつながります。

【ルーブリック 前ページの単元計画の2次における「主体的に学習に取り組む態度」の例】

| | |
|---|--|
| A | どのような書籍やWEBサイトにあてれば必要な情報が得られそうかを考え、いつまでにどんな情報を得ておけば良いか、見直しをもって取り組んでいる。 |
| B | どのような書籍やWEBサイトにあてれば必要な情報が得られそうかを考えて、積極的に情報を得ようとしている。 |
| C | どのような書籍やWEBサイトにあてれば必要な情報が得られそうかが判断できない。 【支援】ワークの資料ページを示したり、具体的な検索ワードを与えたりして考えさせる。 |

4 評価の実際…Google フォームを活用した振り返り

単元を通した「学習の調整」を見取るには、毎時の振り返りを活用するのが効果的です。この単元では、Chromebook を活用して Google フォームで行いました（下図）。「分かったこと・出来るようになったこと」という「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する振り返りと併せて、「次回の授業をより充実させるため」にしておくべきこと」という項目で「主体的に学習に取り組む態度」の「学習の調整」の面を見取ります。

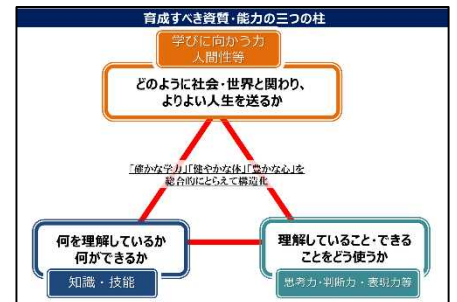
この方法により「知識・技能」「思考・判断・表現」の獲得と「主体的に学習に取り組む態度」の発揮をつなげて捉えることも可能になります。一人一台端末を用いた振り返りの具体的な方法は『授業改善リーフレット2023～「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「ICTの活用」～』（中越教育事務所 R5.1発行予定）を参照してください。

5 効果的・効率的に評価するために…「形成的評価」と「記録に残す評価」

本実践は「記録に残す評価」を行う単元として位置付けたものです。しかしながら、全ての単元・授業においてルーブリックを作成し、評価をして記録に残すのは難しいでしょう。

そこで、「形成的評価」として、上記のような振り返りやまとめの記述などを活用し、子供の「学習改善」と教師の「指導改善」を進めます。

一方、「記録に残す評価」は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について記録に残す単元を設定し、それまでに高めてきた学びを発揮させ、総括的評価につなげることが考えられます。



学習指導要領で、育成すべき資質・能力の三つの柱の一つとして示された「学びに向かう力、人間性等」。「主体的に学習に取り組む態度」は、この資質・能力の評価の観点です。子供たちが社会・世界と関わり、よりよい人生を送るために、指導と評価の一体化を図り、自分で学習を調整しながら粘り強く取り組む力を身に付けさせていきましょう。

まとめ

- ☑ 「主体的に学習に取り組む態度」は、「粘り強さ」「学習の調整」の二つの側面から評価する。
- ☑ 単元計画に評価場面、評価規準、評価方法を位置付けるとともに、ルーブリックを作成する。
- ☑ 「学習の調整」の見取りに、ICTを活用した振り返りを用いる。
- ☑ 「形成的評価」「記録に残す評価」を明確にし、効果的・効率的に評価する。

* 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語」（国立教育政策研究所 令和2年3月）

* 「【指導のヒント】目当ての提示や振り返りの工夫で、子どもが自ら学ぶ力を育む～九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 伊藤崇達」（『VIEW21 教育委員会版 2019 Vol.3』 VIEW next ONLINE ベネッセ）